



# 栽培ブドウにおけるブドウミタマバエ (仮称) *Asphondylia* sp. の発生とハリオタマバエ類の生態

公益社団法人福島県植物防疫協会飯坂試験地 佐々木 正 剛  
農研機構果樹茶業研究部門 うえ ち な み

## はじめに

福島県におけるブドウの栽培面積は 291 ha、収穫量は 3,150 t、シェアは全国第 12 位であり、モモ 1,780 ha、リンゴ 1,410 ha、カキ 1,390 ha、ニホンナシ 1,120 ha、ウメ 473 ha に次ぐ生産規模である（農林水産省 編, 2011）。ブドウの主な栽培品種は、‘巨峰’、‘ピオーネ’、‘シャインマスカット’、県オリジナル品種の‘あづましずく’、‘ふくしずく’等大粒品種と‘スチューベン’、‘ノースレッド’等小粒品種である。また、生産量は少ないものの地域の特産果樹として‘瀬戸ジャイアンツ’、‘ベニバラード’、‘クイーンニーナ’等多種多様な品種が栽培されている。

主に発生するブドウ病害虫は、病害ではべと病、晩腐病、黒とう病、害虫ではチャノキイロアザミウマ、ハダニ、クビアカスカシバであり、各地域の病害虫防除暦による薬剤防除が実施されている。試験研究では、べと病の QoI 剤耐性菌検定試験やクビアカスカシバに対する交信かく乱剤や昆虫病原性線虫剤（商品名バイオセーフ）の農薬登録に向けた試験が実施されている。

2012 年に栽培ブドウにおいてブドウミタマバエと 2016 年に栽培ブドウと栽培ヤマブドウにおいてブドウトックリタマバエの 2 種のタマバエがほぼ同時期に確認された。ブドウミタマバエについては、2017 年 9 月 15 日に福島県病害虫防除所から平成 29 年度病害虫発生予察情報特殊報第 1 号が発表された。これに基づいて、ブドウミタマバエの発生経緯や形態、発生生態等について紹介し、また、本種が属するハリオタマバエ類の形態的特色や寄主植物等についても報告する。タマバエを同定していただき、また調査研究をご指導いただいた九州大学名誉教授の湯川淳一博士に厚く御礼申し上げる。

Occurrence of the Grape Gall Midge, *Asphondylia* sp. (Diptera: Cecidomyiidae), and Biological Characteristics of the Genus *Asphondylia*. By Masatake SASAKI and Nami UECHI  
(キーワード: *Asphondylia*, ブドウミタマバエ, ブドウ, ハリオタマバエ類, 新害虫)

## I 発生経過

図-1 にブドウミタマバエの発生分布図、表-1 に発生経過を示した。2012 年 7 月 12 日に福島県伊達市梁川町および宮城県伊具郡丸森町の施設ブドウ園（伊達市の生産者が 2 園地を栽培管理しており、2 園地間の距離は約 100 m）において、伊達市では‘瀬戸ジャイアンツ’と‘ベニバラード’、伊具郡では‘瀬戸ジャイアンツ’の奇形化した果粒（以下、虫こぶ）中にハエ目幼虫を確認した。‘瀬戸ジャイアンツ’では正常な果粒は山椒の実大であった

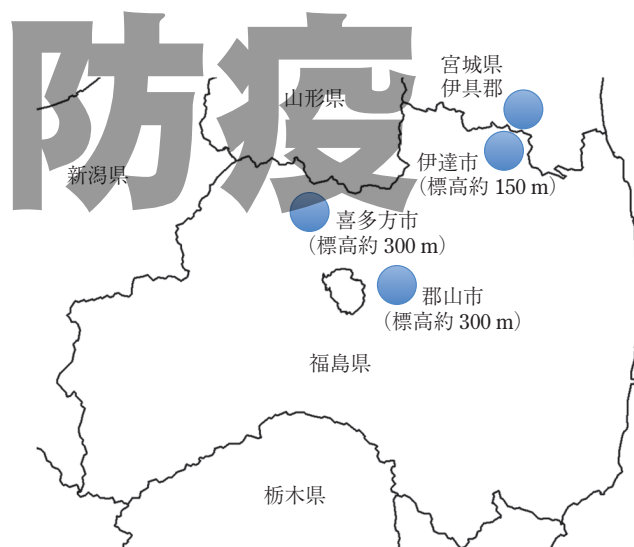


図-1 ブドウミタマバエの発生分布図

表-1 ブドウミタマバエの発生確認経過

年	場所	品種
2012~17 年	宮城県伊具郡丸森町	瀬戸ジャイアンツ
2012~17 年	福島県伊達市梁川町	瀬戸ジャイアンツ
2012 年	福島県伊達市梁川町	ベニバラード
2014 年	福島県伊達市梁川町	紅環
	福島県喜多方市熱塩加納町	シャインマスカット, スチューベン
2016 年	福島県喜多方市熱塩加納町	ノースレッド
2017 年	福島県伊達市梁川町	紅環, カッタクルガン
	福島県郡山市熱海町	クイーンニーナ